



平成 26 年度 第 3 回 横浜市救急業務検討委員会 次第

平成 26 年 12 月 16 日 (火)
午後 6 時 30 分から
横浜市健康福祉総合センター
6 階 会議室

1 開会

2 議題

広報のあり方について

- (1) 平成 26 年上半期救急概況 (速報) 【資料 1】
- (2) 平成 26 年度第 2 回横浜市救急業務検討委員会発言要旨 【資料 2】
- (3) 中間報告 (案) について 【資料 3】
- (4) 平成 26 年度における消防局の取組について 【資料 4】

3 その他

横浜市救急業務検討委員会 委員名簿

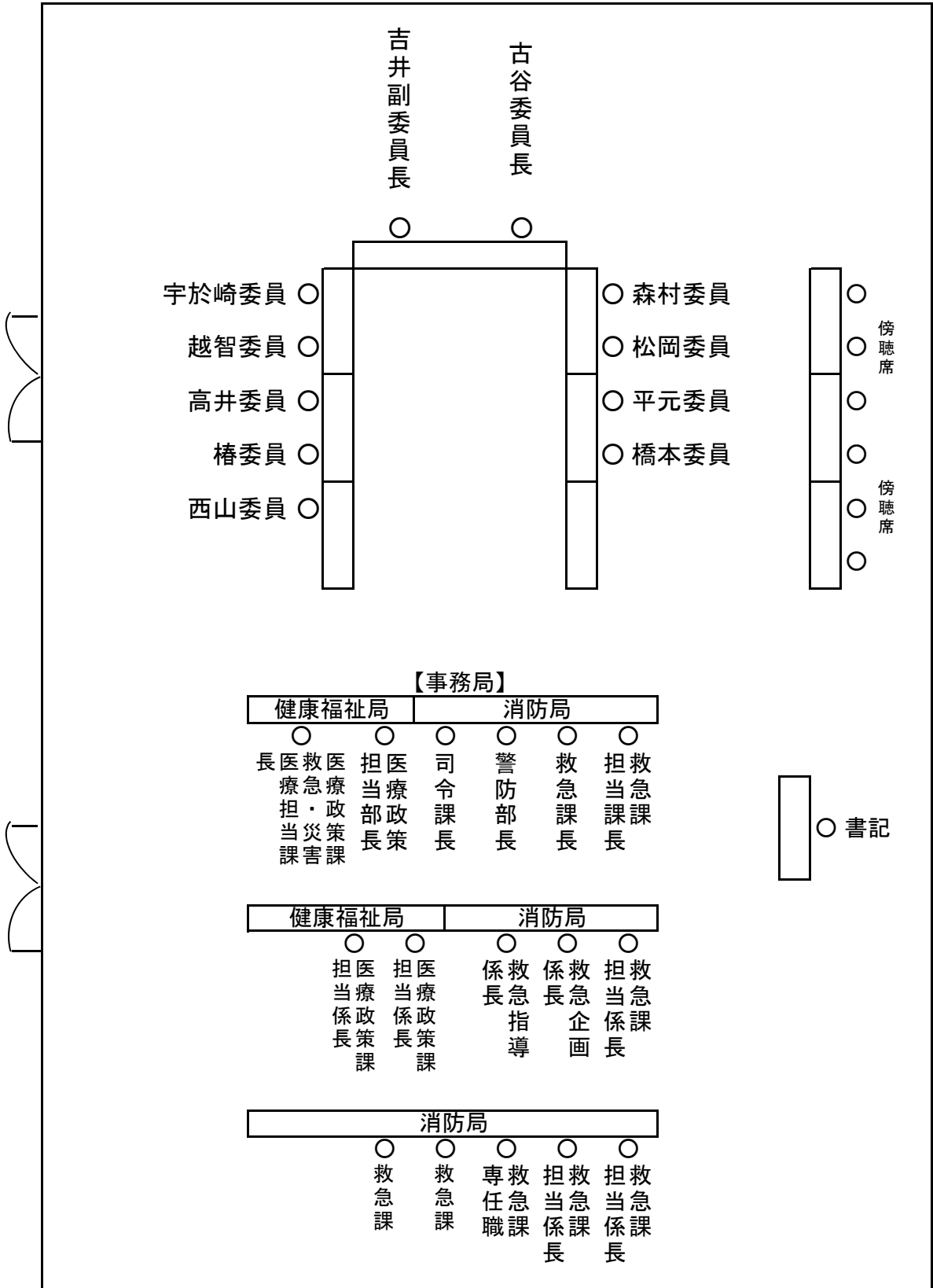
有限会社 エンカツ社 代表取締役社長	うおざき ひろみ 宇 於 崎 裕 美
Journalist Freelance	おち とよこ 越 智 登 代 子
横浜市立みなと赤十字病院 院長	しのみや けんいち 四 宮 謙 一
弁護士	たかい かえこ 高 井 佳 江 子
横浜市社会福祉協議会 社会福祉部長	たなべ ゆうこ 田 邊 裕 子
神奈川新聞社 経営管理局 総務部	つばき まり 椿 真 理
一般社団法人横浜市医師会 常任理事	にしやま たかふみ 西 山 貴 郁
杏林大学 総合政策学部 教授	はしもと ゆうたろう 橋 本 雄 太 郎
公益社団法人横浜市病院協会 副会長	ひらもと まこと 平 元 周
一般社団法人横浜市医師会 会長	ふるや まさひろ 古 谷 正 博
NPO法人グリーンママ 緑区地域子育て支援拠点いっぽ 施設長	まつおか よしこ 松 岡 美 子
横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター 部長 横浜市メディカルコントロール協議会 会長	もりむら なおと 森 村 尚 登
公益社団法人横浜市病院協会 会長	よしい ひろし 吉 井 宏

五十音順;敬称略

計 13名

横浜市救急業務検討委員会 席次表

平成26年12月16日(火)
 18時30分から
 横浜市健康福祉総合センター
 6階 会議室



平成 26 年上半期救急概況（速報） <記者発表資料より>

～平成 26 年 1 月 1 日から 6 月 30 日まで～

高齢者搬送4万人超、過去最多を記録！

救急出場件数は 86,485 件で、最も多かった前年同期より 1,352 件増加となりました。

65 歳以上の高齢者の搬送は、40,651 人で、前年同期より 1,206 人増加しており、6 割以上が入院を必要とする中等症以上となっています。

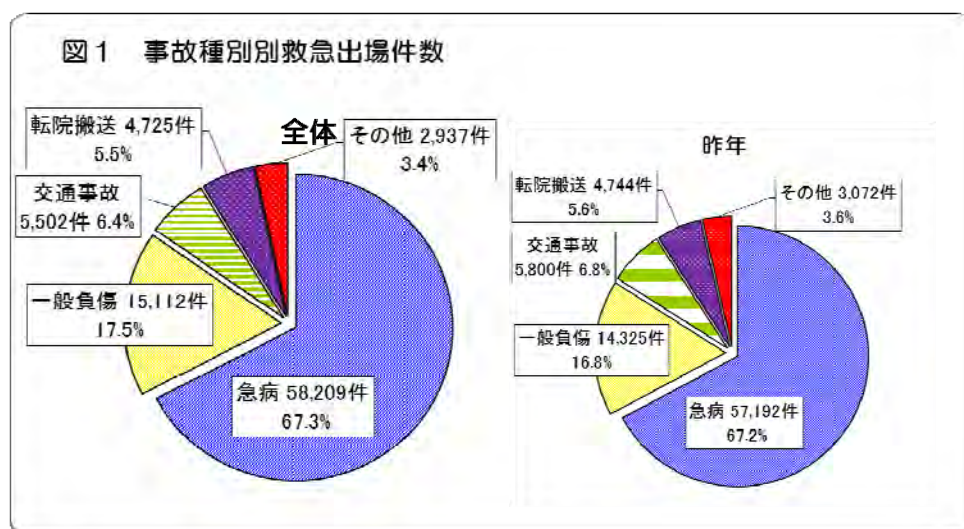
救急の概況（詳細は、別添資料参照）

(1) 救急出場件数

- ・平成 26 年上半期の救急出場件数は 86,485 件で、前年同期と比べて 1,352 件
- ・1 日あたりの平均出場件数は 478 件（3 分 1 秒に 1 回救急自動車が出場）
- ・前年同期と比べ、1 日あたり 8 件増加
（平成 25 年上半期：1 日平均出場件数 470 件、3 分 4 秒に 1 回出場）

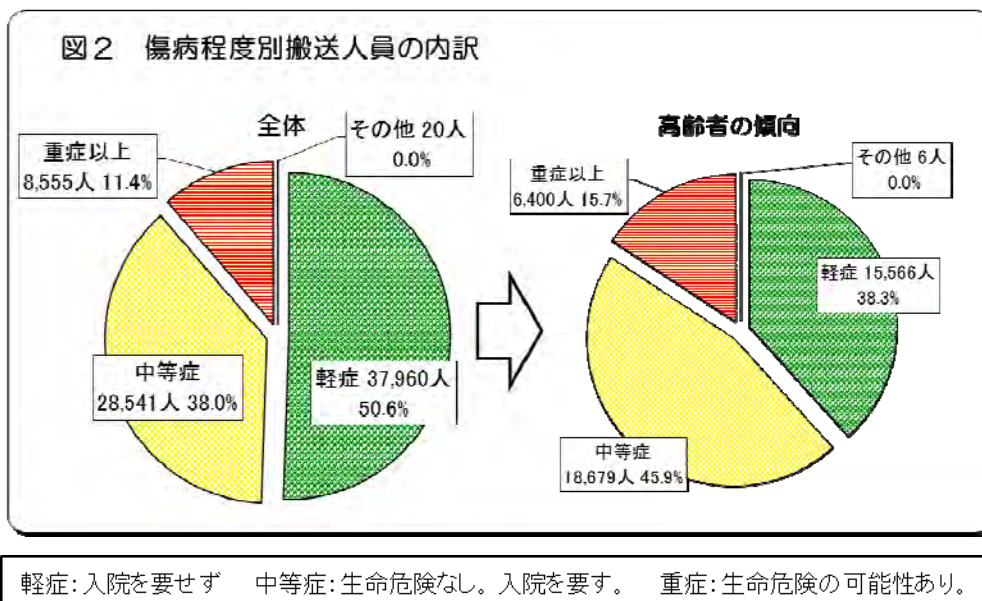
(2) 事故種別別救急出場件数

- ・前年同期と比べて、急病、一般負傷が増加、交通事故は減少
- ・高齢者の一般負傷の増加率が高く、一般負傷全体の半数以上を占める
- ・急病が 58,209 件（全体の 67.3%）、1,017 件の増加
- ・一般負傷は 15,112 件（全体の 17.5%）、787 件の増加
- ・交通事故は 5,502 件（全体の 6.4%）で 298 件の減少



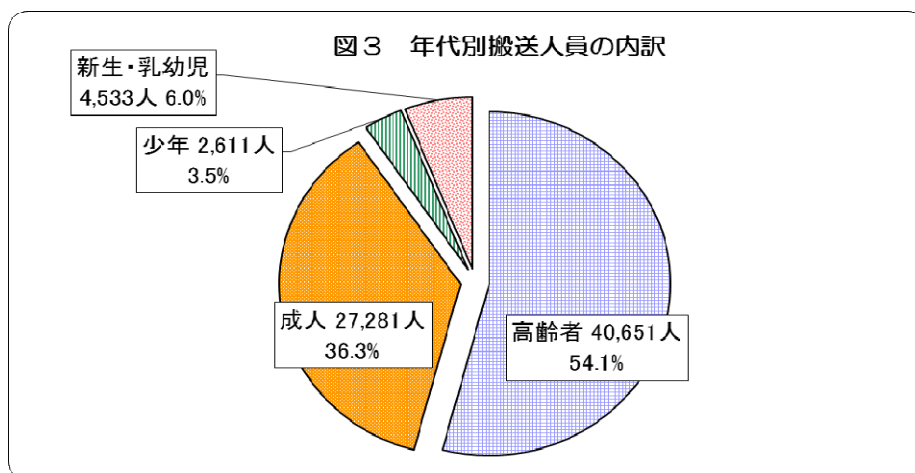
(3) 傷病程度別搬送人員

- ・前年同期と比べて、搬送人員は増加
- ・搬送人員の傷病程度の内訳は、軽症が減少、中等症が増加
- ・搬送された高齢者は、入院が必要となる中等症の占める割合が高くなり、重症等を含めた中等症以上が、全体の6割以上（61.6%）
- ・搬送人員は75,076人で、前年同期と比べて745人（1.0%）の増加
- ・搬送人員の傷病程度の内訳は、軽症が37,960人（全体の50.6%）、中等症が28,541人（38.0%）、重症以上が8,555人（11.4%）



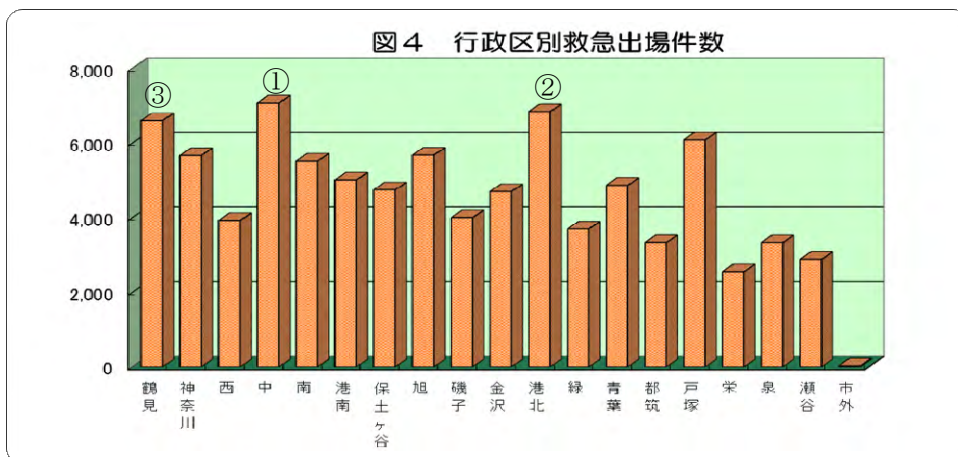
(4) 年代別搬送人員

- ・高齢者（65歳以上）の搬送が増加し、全体の54.1%を占める
- ・前年同期と比べ、高齢者（65歳以上）が1,206人増加、少年（7歳以上18歳未満）が15人増加、成人（18歳以上65歳未満）が531人減少
- ・構成比では、高齢者（65歳以上）が40,651人（全体の54.1%）、成人（18歳以上65歳未満）は27,281人（36.3%）、少年（7歳以上18歳未満）は2,611人（3.5%）、新生・乳幼児（7歳未満）は4,533人（6.0%）



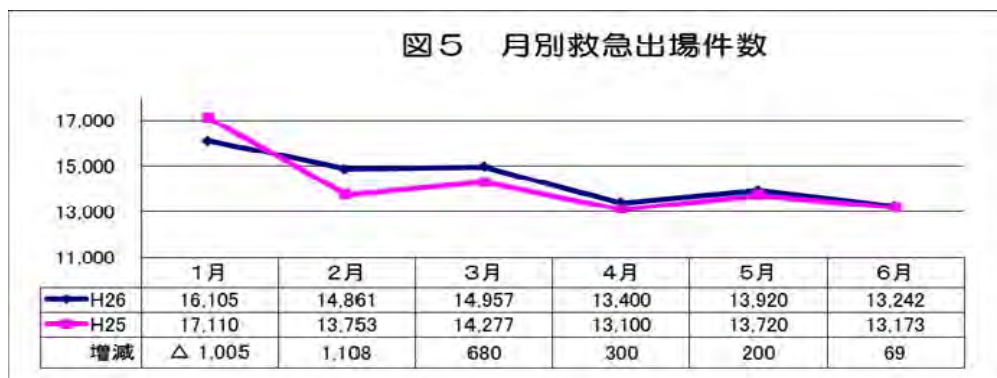
(5) 発生行政区別救急出場件数

- ・ 出場件数が多い行政区は、中区(7,066件)、港北区(6,841件)、鶴見区(6,597件)の順



(6) 月別救急出場件数

- ・ 月別の救急出場件数は、1月を除いた全ての月で前年同月より増加もっとも大きく増加したのは2月で、1,108件(8.1%)増加



平成26年上半期の救急状況〈速報〉

1 救急出場件数

区分	平成26年	平成25年	増△減	増減率
救急出場件数	86,485	85,133	1,352	1.6%
1日あたりの件数	478	470	8	

2 事故種別別救急出場件数

区分	平成26年		平成25年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	86,485	100%	85,133	100%	1,352	1.6%	
事故種別	急病	58,209	67.3%	57,192	67.2%	1,017	1.8%
	一般負傷	15,112	17.5%	14,325	16.8%	787	5.5%
	交通事故	5,502	6.4%	5,800	6.8%	△298	△5.1%
	その他	7,662	8.9%	7,816	9.2%	△154	△2.0%

3 傷病程度別搬送人員

区分	平成26年		平成25年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	75,076	100%	74,331	100%	745	1.0%	
程度	軽症	37,960	50.6%	38,604	51.9%	△644	△1.7%
	中等症	28,541	38.0%	27,379	36.8%	1,162	4.2%
	重症以上	8,555	11.4%	8,331	11.2%	224	2.7%
	その他	20	0.0%	17	0.0%	3	17.6%

4 年代別搬送人員

区分	平成26年		平成25年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	75,076	100%	74,331	100%	745	1.0%	
年代	高齢者	40,651	54.1%	39,445	53.1%	1,206	3.1%
	成人	27,281	36.3%	27,812	37.4%	△531	△1.9%
	少年	2,611	3.5%	2,596	3.5%	15	0.6%
	新生・乳幼児	4,533	6.0%	4,478	6.0%	55	1.2%

5 発生行政区別救急出場件数

区分	平成26年		平成25年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	86,485	100%	85,133	100%	1,352	1.6%	
行政区	鶴見	6,597	7.6%	6,553	7.7%	44	0.7%
	神奈川	5,663	6.5%	5,525	6.5%	138	2.5%
	西	3,921	4.5%	3,965	4.7%	△44	△1.1%
	中	7,066	8.2%	6,795	8.0%	271	4.0%
	南	5,516	6.4%	5,427	6.4%	89	1.6%
	港南	5,006	5.8%	5,150	6.0%	△144	△2.8%
	保土ヶ谷	4,744	5.5%	4,745	5.6%	△1	△0.0%
	旭	5,674	6.6%	5,659	6.6%	15	0.3%
	磯子	3,995	4.6%	3,735	4.4%	260	7.0%
	金沢	4,696	5.4%	4,579	5.4%	117	2.6%
	港北	6,841	7.9%	6,795	8.0%	46	0.7%
	緑	3,693	4.3%	3,607	4.2%	86	2.4%
	青葉	4,864	5.6%	4,838	5.7%	26	0.5%
	都筑	3,338	3.9%	3,362	3.9%	△24	△0.7%
	戸塚	6,079	7.0%	5,805	6.8%	274	4.7%
	栄	2,545	2.9%	2,465	2.9%	80	3.2%
	泉	3,336	3.9%	3,295	3.9%	41	1.2%
瀬谷	2,886	3.3%	2,802	3.3%	84	3.0%	
市外	25	0.0%	31	0.0%	△6	△19.4%	

6 月別救急出場件数

区分	平成26年		平成25年		前年比較	
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計	86,485	100%	85,133	100%	1,352	1.6%
1月	16,105	18.6%	17,110	20.1%	△1,005	△5.9%
2月	14,861	17.2%	13,753	16.2%	1,108	8.1%
3月	14,957	17.3%	14,277	16.8%	680	4.8%
4月	13,400	15.5%	13,100	15.4%	300	2.3%
5月	13,920	16.1%	13,720	16.1%	200	1.5%
6月	13,242	15.3%	13,173	15.5%	69	0.5%

※すべての表の構成比は少数第2位を四捨五入しているため合計が100にならない場合があります

平成 26 年度 第 2 回 横浜市救急業務検討委員会 発言要旨

— 救急搬送の現状に関すること —

- ◆ 救急隊が状況聴取に要する時間が救急活動時間を延伸させている原因であれば、服用中の薬や通院歴が簡単に分かるよう個人の ID カードを作成したり、簡便な聴取方法を考えたりすることで時間短縮に寄与すると思う。
- ◆ 病院照会に時間を要しているため、救急隊の活動要領を見直す必要性も考えられる。
- ◆ 年次推移の救急統計データから、どの年齢層も救急車の利用率は変化していないので、単に、人口増加により救急件数が押し上げられていることが分かった。
- ◆ 7歳未満の方々が“予防的”に救急車を利用している傾向があるように感じる。子育て拠点などで母親に救急車の利用方法などを広報してみてもどうか。
- ◆ 救急件数の抑制について、高齢者に対しては高齢者人口が増加していることへの対策を、65歳未満の方々に対しては緊急度評価の広報に努めるなど、年代別に違った視点で対策が立てた方が良いのではないか。
- ◆ 高齢者の方が救急車を利用する際には、かなり容態が悪くなっていることが予想される。容態が悪化する前に、早めに医療機関を受診するよう広報した方が良い。

— 広報に関すること —

- ◆ 横浜市の広報誌は、自治会に加入していないと配付されない実態がある。そういった方たちへの配付方法も考えるべき。
- ◆ 市民の方々は身近な情報や健康について興味を持っている。地域限定で放送されているメディアや地域情報誌を活用して広報してはどうか。
- ◆ 新聞は、インターネットなどと比べ年齢の高い方々が見ていると言われている。こういったことを意識して情報発信をすると良いのではないか。
- ◆ 横浜市のホームページに掲載するだけでは閲覧数が少ない。インターネット上にプレリリースを流すと閲覧数が増加する。
- ◆ 救急車の利用抑制に対するアプローチだけでなく、救急車の利用を躊躇した方の重症案件があることも念頭に置いて、広報の方法を考えなければいけない。
- ◆ 統計データを見て問題点を解析、検討した上で広報の仕方を考えていかなければならない。

— 救急受診ガイドに関すること —

- ◆ 色やデザインが気づらく改善の余地がある。高齢者用と子ども用と分けてはどうか。
- ◆ 冊子の概要版を作成することはできないか。
- ◆ 高齢者は冊子でしか見ないと思わず、WEB版が簡単だということを周知した方が良い。

— 「ケガの予防対策」パンフレットの見直しに関すること —

- ◆ 各項目について、かなり文字が細かい。特に高齢者への配慮が必要。
- ◆ 「熱中症」も注目されているので、項目として追加してはどうか。
- ◆ 「救急車が来るまでに用意しておくもの」は、「日頃から用意しておくもの」とした方が良い。また、その項目に「近親者の連絡先」を追加してはどうか。
- ◆ お風呂でぐったりしているのを「ケガ」と分類するのはおかしい。タイトルの再考も必要。
- ◆ 「予防対策」というタイトルを「予防できる家庭内事故」にするなどの工夫が必要。
- ◆ 家庭内で多い事故ベスト3を掲載するなど内容を整理し、また、視覚的に興味を引き、瞬間的に情報として捉えられるように工夫した方が良い。
- ◆ 細かいデータを掲載するのは煩わしく感じる。コンセプトが予防対策であれば、細かい内容を盛り込む必要はないのではないか。
- ◆ 「高齢者編」は、誰に読んでほしいパンフレットなのかをどこかに記載した方が良い。
- ◆ 救急受診ガイドを掲載するには、もう少し整理が必要。
- ◆ 平成23年の救急業務検討委員会でパンフレットの検討をした時と表現を統一すべき。
- ◆ 誰に何をどう伝えるのかを見極めて議論するべき。



横浜市救急業務検討委員会 中間報告（案）

～救急に関する広報のあり方について～

平成 26 年 12 月 日

はじめに

今回の横浜市救急業務検討委員会では、平成 26 年度から 27 年度の 2 か年に渡り、救急搬送の現状と課題を踏まえ、救急業務の円滑な推進を図るため協議を行っています。

平成 25 年の救急出場件数は、173,772 件で、最も多かった 24 年から 3,484 件 (2.0%) 増加し、過去最多の件数となりました。今後の救急件数を本市の将来人口推計に基づき算出すると、一層の高齢化の進展により、毎年 5 千件程度の増加が続き、平成 32 年頃には 20 万件を超えるものと推測されます。

救急出場件数の増加等に伴い、救急車が現場に到着するまでの時間等も延伸傾向にあるなど、救急業務を取り巻く課題や、それに対する対応策を検討し、必要な制度の見直し等を行うことが求められています。

これらの状況を踏まえ、平成 23 年度から 24 年度の本委員会では、「ケガの予防対策」について検討し、その結果を基に平成 25 年度に「救急搬送事例から見たケガの予防対策」パンフレットを作成し、あらゆる機会を通じて市民の皆様に配布しているところですが、平成 25 年中、一般負傷（いわゆるケガ）により救急出場した件数は、前年と比較して増加となりました。

今後避けられない救急需要の増大に対しては、「救急需要の実態」はもとより、「救急行政の取組」などを市民の皆様に伝え、救急に関する理解を深めていただくための広報が重要な施策であり、また、今年度導入した「横浜市救急受診ガイド」についても、より多くの市民の方々に広めていく必要があることから、今期は救急に関する広報のあり方について検討することとしました。

今回の中間報告は、これまでの議論を踏まえ、論点の整理を更に一步進め、次年度以降、検討を進めていくための指針とすべきものです。

今後は、本報告に沿って引き続き検討を進めていきます。

1 検討項目

救急に関する広報のあり方について

2 背景

- (1) 救急需要の増加
- (2) 高齢者搬送の割合の増加
- (3) 救急隊による現場滞在時間の延伸
- (4) 搬送人員全体の50%を超える割合が軽症者。ただし、軽症者の割合が減少、中等症の割合が増加の傾向

3 現状と課題

【全体的な傾向】

- (1) 平成25年中の救急出場件数は、最も多かった平成24年を上回り、過去最多となり、前年比2.0%の増加となった。
- (2) 事故種別の一般負傷は、出場件数が前年比7.2%、搬送人員が前年比7.4%の増加となった。
- (3) 現場到着から搬送開始までの時間（現場滞在時間）は延伸傾向が続き、5年間で4.6分伸びている。
- (4) 傷病程度別では、中等症（生命の危険はないものの入院を要するもの）の割合が増加傾向となっているものの、依然として軽症の割合が約50%を占める。

【高齢者にみられる傾向】

- (5) 過去5年間における各年代の救急車の利用率は変化していないので、救急出場件数増加の要因は、救急要請する確率が高い高齢者の人口増加によるものと考えられる。
- (6) 平成25年中の救急搬送人員は151,410人で、そのうち65歳以上の高齢者が79,448人、前年比3,548人で大幅な増加となり、全搬送人員の52.5%を占めた。
- (7) 65歳以上の高齢者の傷病程度は、中等症以上の割合が軽症の割合を上回っている。
- (8) 高齢者施設からの救急搬送が増加傾向にある。

【その他の傾向】

- (9) 18歳未満の傷病程度は、軽症の割合が約80%を占める。

救急需要については、これまで、横浜型救急システムの導入や救急車の増隊など救命体制を強化する対策を講じてきましたが、今後も救急件数が増加傾向にある状況を踏まえ、市民の皆様へ救急に関する理解を深めていただくことが重要であります。そのため、平成23年度から24年度に本委員会で検討した「ケガの予防」や、今年度導入したご家庭で病院を受診すべきか判断でき、緊急性が高い場合におけるセーフティネットでもある「横浜市救急受診ガイド」について、広報していく必要があります。

4 主な検討結果

【統計データの分析に関すること】

- (1) 効果的な広報を行うには、救急搬送統計についてさらに解析をし、検討していく必要がある。
- (2) 様々なデータを年代別に分析し、経時的に変化を見ることが必要である。

【体制の整備に関すること】

- (3) 横浜市救急受診ガイドを機能させるには、救急相談サービスの整備も検討していく必要がある。

【年代別の対策に関すること】

- (4) 最近では高齢者向け住宅などが増加しているので、そういった施設や住宅から救急車を要請した際でも救急隊が円滑に活動できるようなルール作りが必要である。
- (5) 子育て世代は、「心配だから」「念のため」といった予防的な救急車利用をし、高齢者は症状が悪化してから救急車を要請する傾向があることが考えられる。このことから、子育て世代には救急車の利用方法や緊急度評価の広報を、高齢者には早めの医療機関受診の広報をするなど、年代の特徴を捉えて広報する必要がある。
- (6) 若年層はインターネット、高齢者は新聞から情報を入手する傾向があるので、そういったことを意識して情報発信する必要がある。

【その他】

- (7) 近所付き合いが減少する中で、救急車を呼ばなくても解決できる方法の広報や救急車を呼ぶような状況のシミュレーションを行うことも大切である。

5 今後の検討の方向性について

高齢化の進展などによる社会構造の変化に伴い、救急需要が増加しており、今後も増加が続くことが予測されます。このことから、引き続き救急体制を強化していくことはもとより、ケガなどの救急事故等の未然防止を図ることや、今年度横浜市で導入した横浜市救急受診ガイドの利用について広報し、市民の皆様の救急に関する認識を深めることが必要と考えます。

今後、効果的な広報を行うためには、はたらきかける対象者、伝えるべきメッセージ、広報の方法などについて以下のようなことを踏まえて多角的に検討すべきと思われます。

【統計データに関すること】

- (1) 救急需要対策につながる突破口を見つけるためには、様々な救急搬送統計について、年代別にどのような特徴があるのか経時的な変化を見ることが、問題点をあぶり出す必要がある。

【体制の整備に関すること】

- (2) セーフティネットの構築については、市民の安心・安全を確保する上で

重要なことであることから、横浜市救急受診ガイドに加えて電話相談サービスについても積極的に推進していくよう調整を図る必要がある。

- (3) 救急業務については、高齢者特有の事案に対応することもあり、また、今後も高齢者搬送の増加が想定されることから、福祉部門における関係機関等との連携を強化していく必要がある。

【年代別の傾向に関すること】

(4) 子育て世代、高齢者など年代によって、抱えている不安や状況が異なるため、救急車の利用についてはそれぞれ特徴的な背景があることから、年代別に違った視点で対策を立てる必要がある。

(5) 年代によって興味、関心の幅は様々であり、情報の入手手段も異なるため、年代別の特徴を把握し、どの年代に何を伝えたいか、また、どの広報媒体を活用すれば効果があるのかといったことを意識して情報発信する必要がある。

【その他】

(6) 市民に救急に関連する認識を深めてもらうため、十分な取組が必要であり、福祉部門や子育て部門などで緊急時のシミュレーションを行うなどそれぞれの関係機関と連携を図っていく必要がある。

(7) 昨年度発行した「救急搬送事例から見たケガの予防対策」パンフレットを見直す場合には、誰に何をどう伝えるのかについて整理する必要がある。

今後のスケジュール

平成 27 年度は、これまでの検討結果を参考にしながら、さらに救急搬送データを分析し、救急需要対策につながる広報のあり方について検討していきます。
検討結果については、第 15 次報告として取りまとめていただきたいと考えています。

■ スケジュール

平成 27 年度

5 月頃	第 1 回 ・ 26 年度の検討結果を基にさらに検討
7 月頃	第 2 回 ・ 第 15 次報告骨子案について
9 月頃	第 3 回 ・ 第 15 次報告について

平成 26 年度 検討資料要旨
 横浜市の救急搬送の現状

●救急出場件数・高齢者搬送数ともに、3年連続過去最多を更新！

救急出場件数は 173,772 件で、最も多かった平成 24 年を 3,484 件（2.0%）上回り、また、搬送人員では、**65 歳以上の高齢者が全搬送人員の 52.5%**、前年比 3,548 人（4.7%）増加して、ともに過去最多を記録しました。高齢者の搬送人員を程度別にみると、**6 割以上が入院を必要とする中等症以上**となっています。

<救急の概況>

平成 25 年の救急出場件数は 173,772 件で、最も多かった平成 24 年から 3,484 件（2.0%）増加し、過去最多の件数となりました。

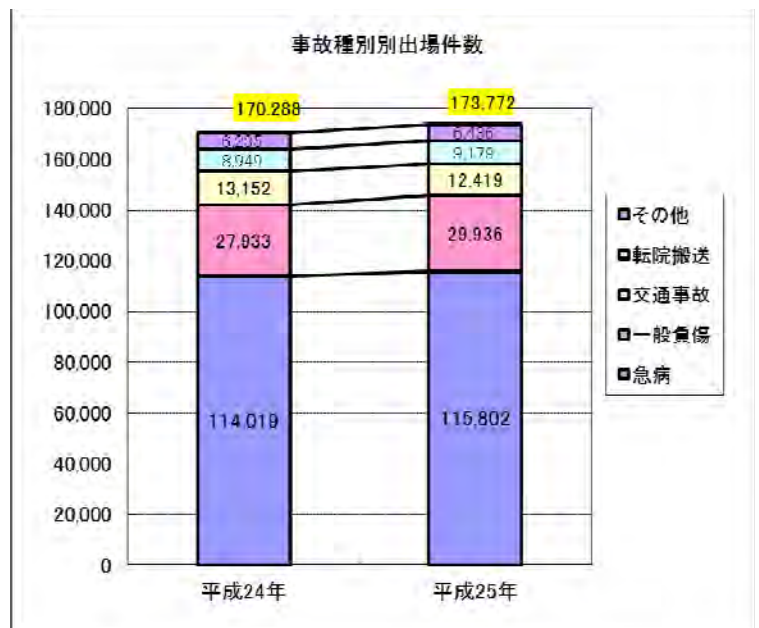
1 日あたりの平均出場件数は 476 件で、3 分 1 秒に 1 回救急自動車が出場したこととなり、前年と比較すると 1 日あたり 11 件の増加となっています。搬送人員は 151,410 人で 2,697 人（1.8%）の増加となりました。



(1) 事故種別別出場件数

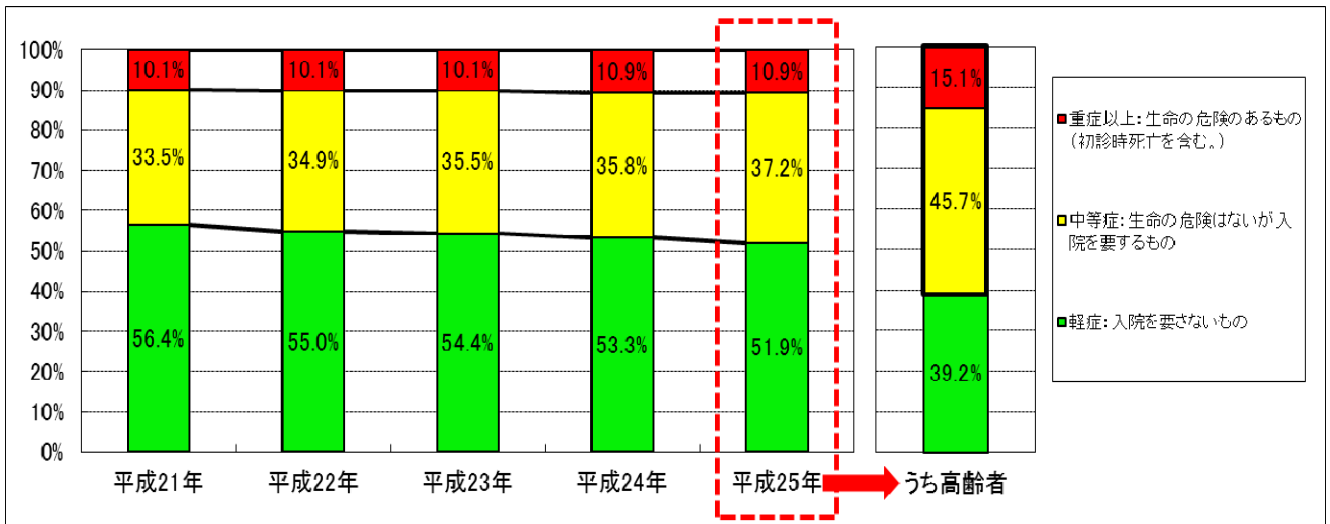
救急出場件数を事故種別で見ると、急病が 115,802 件（全体の 66.6%）で最も多く、前年と比較すると 1,784 件増加しました。このほか、一般負傷は 29,936 件（17.2%）で 2003 件の増加、交通事故は 12,419 件（7.1%）で 734 件の減少、転院搬送が 9,179 件（5.3%）で 230 件の増加、労働災害や運動競技等を含むその他の種別は 6,436 件（3.7%）で 201 件増加しました。

増加率では、一般負傷が最も高く 7.2%の増加となっています。



(2) 傷病程度別搬送人員（医療機関初診時）

搬送人員を傷病程度別で見ると、軽症が78,611人（全体の51.9%）、中等症が56,290人（37.2%）、重症以上が16,480人（10.9%）で、軽症の割合が減少し、中等症が増加する傾向となっています。一方で高齢者を見ると、**入院が必要となる中等症以上の占める割合が高くなり、全体の6割以上**を占めています。

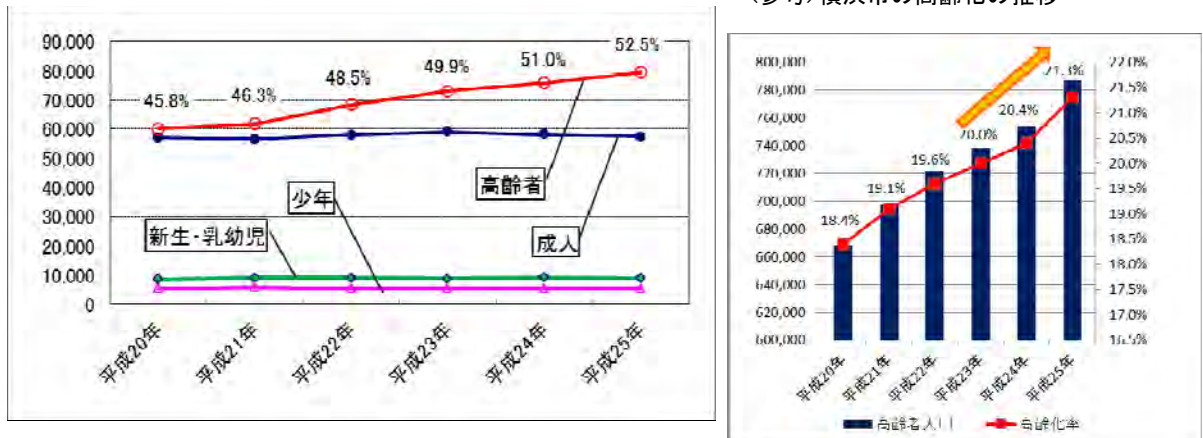


(3) 年代別搬送人員

搬送人員を年代別で見ると、**高齢者（65歳以上）が79,448人（全体の52.5%）**で、前年と比較すると3,548人の増加、成人（18歳以上65歳未満）が57,441人（37.9%）で656人の減少、少年（7歳以上18歳未満）が5,521人（3.6%）で114人の増加、新生・乳幼児（7歳未満）が9,000人（5.9%）で309人の減少となり、少年と高齢者の搬送人員が増加しました。

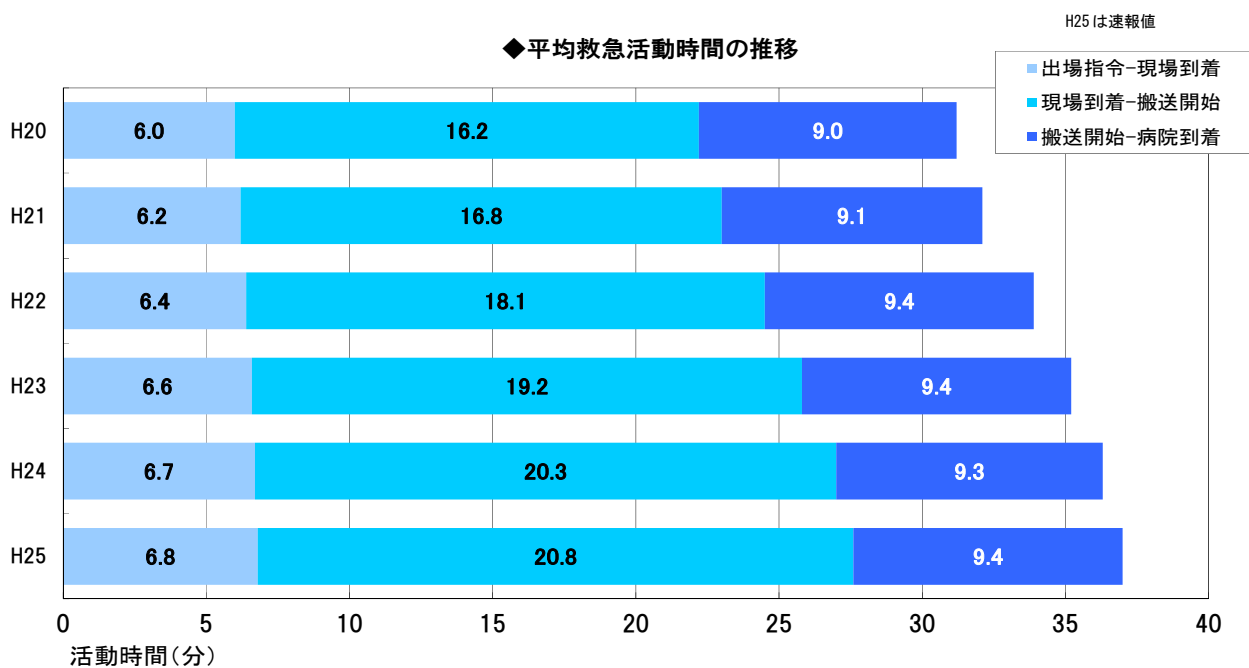
平成20年の本市高齢化率18.4%が平成25年は21.3%で2.9ポイント増加、この間の高齢者の搬送割合が、45.8%から52.5%へと6.7ポイントの増加となっており、市全体の高齢化に歩調を合わせるように搬送が増加しています。今後の一層の高齢化の進展により、救急搬送の増加が予想されます。（横浜市政策局総務部統計情報課・横浜市統計ポータルサイト）

<参考>横浜市の高齢化の推移



(4) 平均救急活動時間の推移

平均救急活動時間は5年間で出場指令から現場到着までは0.8分、現場到着から搬送開始までは4.6分、搬送開始から病院到着までは0.4分の延伸傾向となっており、全体の救急活動時間は5年間で5.8分延伸している。



(5) 年代別救急車の利用率

年代別救急車の利用率は、50歳代までは平均値より低く、60歳代はほぼ平均値と同様、70歳以上は平均値より高くなっている。

◆年代別救急車の利用率

	21年			22年			23年			24年			25年		
	人口	搬送人員	利用率	人口	搬送人員	利用率	人口	搬送人員	利用率	人口	搬送人員	利用率	人口	搬送人員	利用率
10歳未満	325,984	10,824	3.32%	324,833	10,548	3.25%	318,623	10,495	3.29%	315,274	10,737	3.41%	313,456	10,388	3.31%
10歳代	321,144	5,920	1.84%	324,391	5,557	1.71%	334,594	5,587	1.67%	332,455	5,605	1.69%	332,976	5,742	1.72%
20歳代	444,924	11,177	2.51%	439,483	11,013	2.51%	420,065	10,946	2.61%	415,924	10,786	2.59%	409,677	10,118	2.47%
30歳代	602,363	12,190	2.02%	587,281	12,517	2.13%	578,108	12,059	2.09%	555,751	11,424	2.06%	534,952	11,097	2.07%
40歳代	527,031	11,315	2.15%	545,680	11,921	2.18%	569,749	12,646	2.22%	586,796	13,075	2.23%	601,832	13,351	2.22%
50歳代	458,909	11,729	2.56%	440,503	11,856	2.69%	434,874	12,096	2.78%	430,626	11,911	2.77%	431,529	12,272	2.84%
60歳代	465,364	17,734	3.81%	483,231	18,851	3.90%	491,401	19,434	3.95%	488,580	19,080	3.91%	484,055	19,397	4.01%
70歳代	314,934	23,748	7.54%	323,209	25,542	7.90%	335,458	27,291	8.14%	348,638	27,934	8.01%	359,746	28,869	8.02%
80歳代	133,773	21,759	16.27%	142,372	25,029	17.58%	151,172	27,107	17.93%	160,019	29,045	18.15%	169,707	30,813	18.16%
90歳以上	25,820	6,779	26.25%	27,625	7,988	28.92%	29,068	8,872	30.52%	31,267	9,116	29.16%	33,195	9,363	28.21%
合計	3,620,246	133,175	3.68%	3,638,608	140,822	3.87%	3,663,112	146,533	4.00%	3,665,330	148,713	4.06%	3,671,125	151,410	4.12%

※H25は速報値

軽症のみの年代別救急車の利用率は、10歳未満、70歳代以上が平均値より高くなっている。

◆年代別救急車の利用率（軽症のみ）

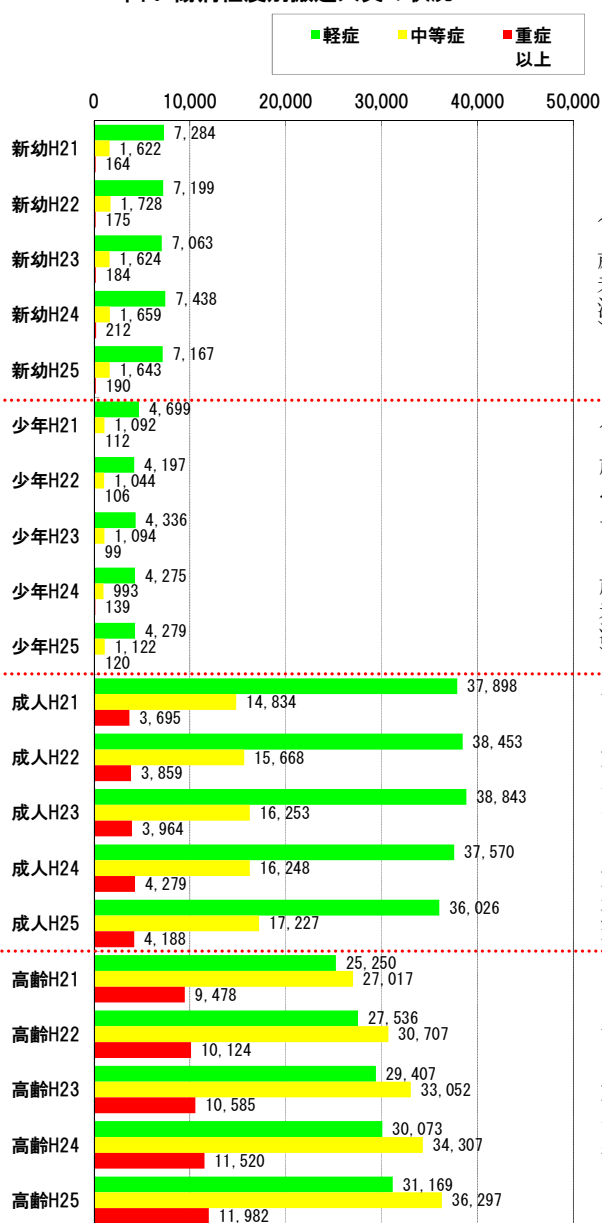
	21年			22年			23年			24年			25年		
	人口	搬送人員	利用率	人口	搬送人員	利用率	人口	搬送人員	利用率	人口	搬送人員	利用率	人口	搬送人員	利用率
10歳未満	325,984	8,722	2.68%	324,833	8,344	2.57%	318,623	8,335	2.62%	315,274	8,601	2.73%	313,456	8,252	2.63%
10歳代	321,144	4,660	1.45%	324,391	4,353	1.34%	334,594	4,346	1.30%	332,455	4,330	1.30%	332,976	4,365	1.31%
20歳代	444,924	8,638	1.94%	439,483	8,316	1.89%	420,065	8,369	1.99%	415,924	7,940	1.91%	409,677	7,304	1.78%
30歳代	602,363	8,786	1.46%	587,281	8,909	1.52%	578,108	8,508	1.47%	555,751	8,006	1.44%	534,952	7,498	1.40%
40歳代	527,031	7,680	1.46%	545,680	8,005	1.47%	569,749	8,423	1.48%	586,796	8,675	1.48%	601,832	8,536	1.42%
50歳代	458,909	6,968	1.52%	440,503	7,160	1.63%	434,874	7,124	1.64%	430,626	6,878	1.60%	431,529	6,860	1.59%
60歳代	465,364	9,199	1.98%	483,231	9,630	1.99%	491,401	10,024	2.04%	488,580	9,580	1.96%	484,055	9,573	1.98%
70歳代	314,934	10,639	3.38%	323,209	11,351	3.51%	335,458	11,936	3.56%	348,638	11,967	3.43%	359,746	12,440	3.46%
80歳代	133,773	7,955	5.95%	142,372	9,129	6.41%	151,172	9,982	6.60%	160,019	10,681	6.67%	169,707	11,138	6.56%
90歳以上	25,820	1,884	7.30%	27,625	2,188	7.92%	29,068	2,602	8.95%	31,267	2,667	8.53%	33,195	2,646	7.97%
合計	3,620,246	75,131	2.08%	3,638,608	77,385	2.13%	3,663,112	79,649	2.17%	3,665,330	79,325	2.16%	3,671,125	78,612	2.14%

※H25は速報値

(6) 年代別傷病程度別搬送人員の状況

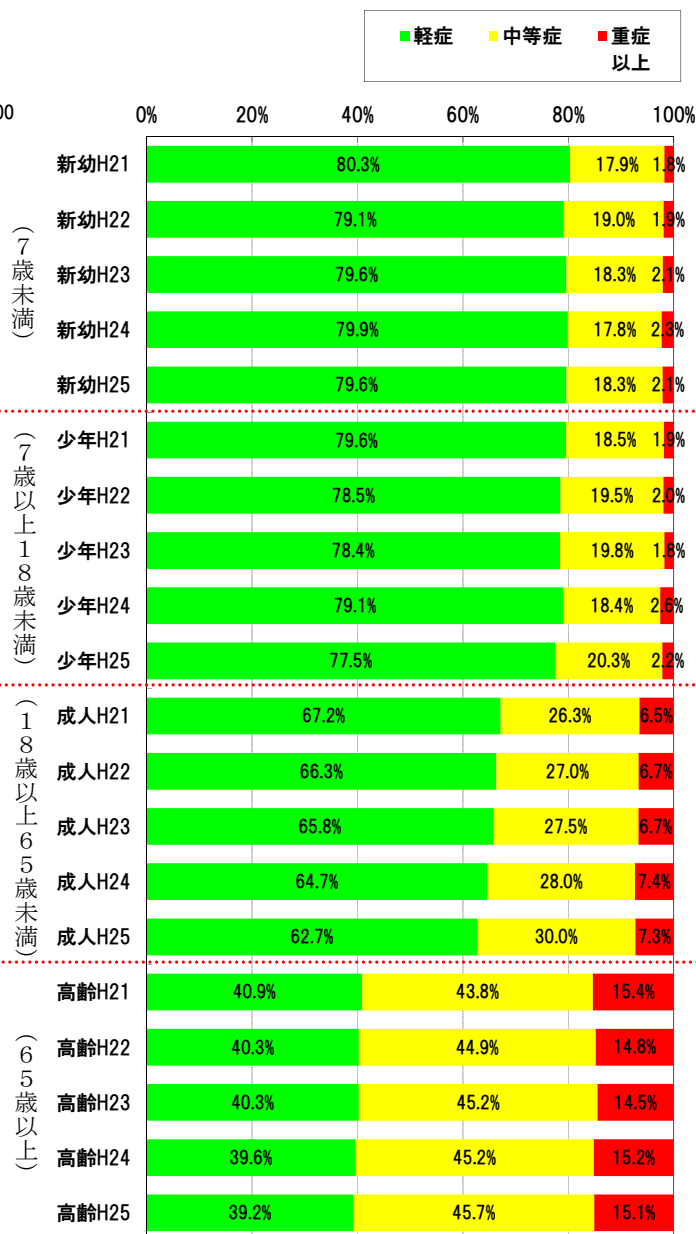
搬送人員を年代別傷病程度別で見ると、高齢者の救急搬送人員は増加が顕著で、中等症の割合が他の年代より高く約45%程度ある。一方、新生児から成人までの軽症は減少傾向、中等症は特に変化がないか微増である。

過去5年間
年代・傷病程度別搬送人員の状況



※H25は速報値

過去5年間
年代・傷病程度別搬送人員割合の状況

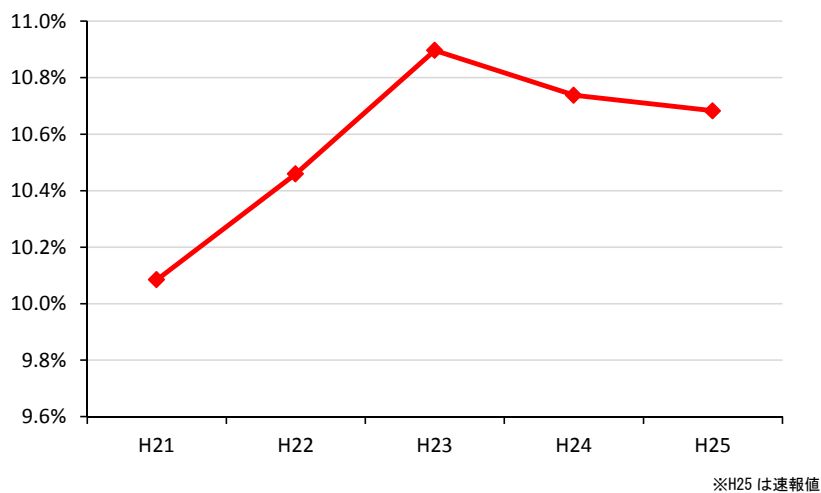


※H25は速報値

(7) 高齢者施設からの救急搬送状況

高齢者搬送のうち、高齢者施設からの搬送人員割合は、平成 24 年に若干減少し、25 年は前年と同様となった。搬送人員で見ると、毎年増加傾向にある。

高齢者搬送のうち
高齢者施設からの搬送人員割合の推移



◆高齢者搬送人員と高齢者施設からの搬送人員

年別	H21		H22		H23		H24		H25	
高齢者搬送人員	61,748		68,368		73,054		75,900		79,448	
高齢者施設からの搬送人員	6,277	10.2%	7,151	10.5%	7,960	10.9%	8,150	10.7%	8,487	10.7%

※H25 は速報値

平成 26 年度における消防局の取組について

1 ケガによる救急要請の多い地域への広報

ケガによる救急要請が多い地域を抽出し、その地域へケガ予防について、重点的に 広報・啓発を行っています。

2 テレビ・新聞等を活用した広報

横浜市救急受診ガイドの運用開始に伴い、早めの記者発表を行いました。(別紙 1 参照) 現在までに複数の新聞社から取材があり、神奈川新聞に掲載されました。
また、地域情報誌からも問い合わせがあり、12 月中に掲載される予定です。

3 子育て世代への広報

子育て世代を対象としたイベント等に参加し、「ケガの予防対策」などについてパンフレットやパネルなどを活用しながら広報を実施しています。(別紙 2 参照)
また、子育て支援拠点で開催された子育て世代への防災教育に参加しました。

4 高齢者福祉施設との連携

救急要請が増加傾向にある高齢者福祉施設に対して、次のことを依頼しました。

◆ 傷病者情報の提供

迅速に救急搬送できるよう、事前に入所者の情報をまとめて整理しておいていただくこと。

◆ 医療機関との連携

医療機関への迅速な受入れのために、入所者が医療を必要とした際の医師の往診体制や緊急時の連絡体制などを連携医療機関等と協議しておいていただくこと。

◆ 家族との連携

入所者の容態が急変した際、家族等が延命処置を望まない場合や医療機関への搬送を望まない場合の救急要請について、トラブルになる可能性があることから、事前に救急車の利用について家族との話し合いを行っていただくこと。また、緊急時には、家族等への連絡体制を確保していただくこと。

平成 26 年 11 月 6 日
消防局 救急課

県内初!

～ 急な病気やケガで迷ったら ～

横浜市救急受診ガイド



の運用を開始します!

市民の皆様が急な病気やケガをして、病院に行くか、救急車を呼ぶべきか迷った際に、パソコンやスマートフォンで緊急性や病院で受診する必要性等についての判定結果を確認することができる「横浜市救急受診ガイド」を作成しました!

横浜市救急受診ガイドとは

「横浜市救急受診ガイド」は急な病気やケガで病院に行くか、救急車を呼ぶべきか迷った際に、パソコンやスマートフォンにより横浜市消防局のホームページの「横浜市救急受診ガイド」にアクセスして、該当する病気やケガの症状を選択することで、緊急度や病院で受診する必要性等を判断できるサービスです。

横浜市救急受診ガイドによるアドバイス内容

- 救急車を要請する判断
- 病院で受診するべき時期
- 参考とする診療科目

※ 緊急性があると思われる場合は、ためらわず救急車を要請してください。

緊急度の判定結果について

赤

『救急車を呼びましょう。』
緊急度が高いと思われます。
119 番に電話して救急車を要請しましょう。

黄

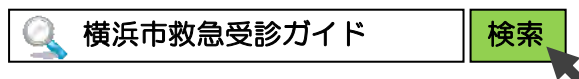
『今すぐに病院で受診しましょう。』
2 時間以内をめやすに病院で受診しましょう。

緑

『病院で受診しましょう。』
病院で受診した方が良いでしょう。
夜間でしたら翌日の診察でもかまいません。

※ 運用開始：平成 26 年 12 月 15 日（月）（予定）

▶ アクセスはこちらから
横浜市救急受診ガイド URL
<http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/qa/jushinguide/>



(横浜消防マスコットキャラクター：ハマくん)

裏面あり

横浜市救急受診ガイド 画面イメージ



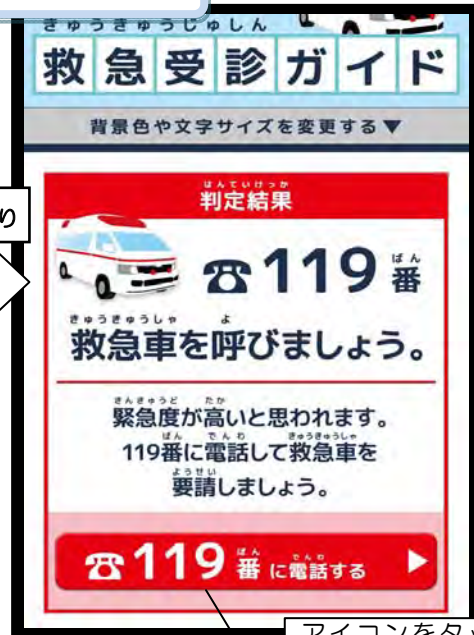
対象となる方の年代(大人又は子ども)を選択した後、該当する症状を選択していきます。

症状選択



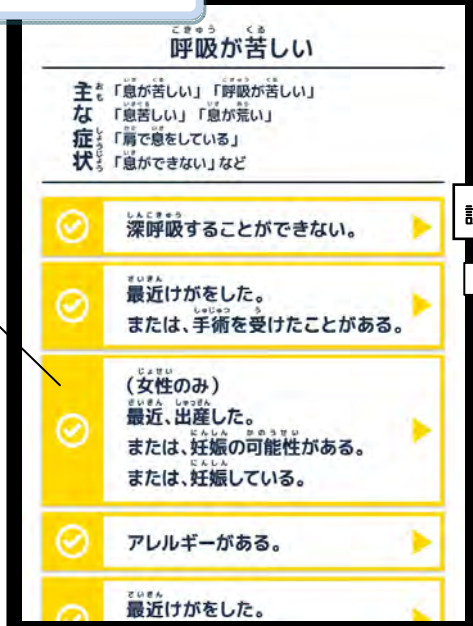
該当あり

判定結果 (赤)



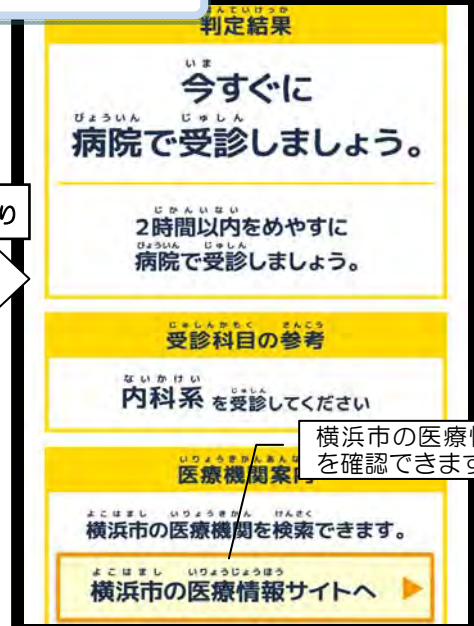
アイコンをタップすることで119番通報が可能です。

症状選択



該当あり

判定結果 (黄)



横浜市の医療情報を確認できます。

症状一覧から該当する症状を選択します。症状が当てはまらない場合は、「どれも当てはまらない。」を選択します。

続けて該当する症状を選択することで判定結果が表示されます。

(画面はスマートフォン版・画面の一部を省略しています。)

※ 緊急性があると思われる場合は、ためらわず救急車を要請してください。

※ 運用開始：平成 26 年 12 月 15 日 (月) (予定)

横浜市救急受診ガイド URL

<http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/cq/jushinguide/>



横浜市救急受診ガイド

検索



お問合せ先

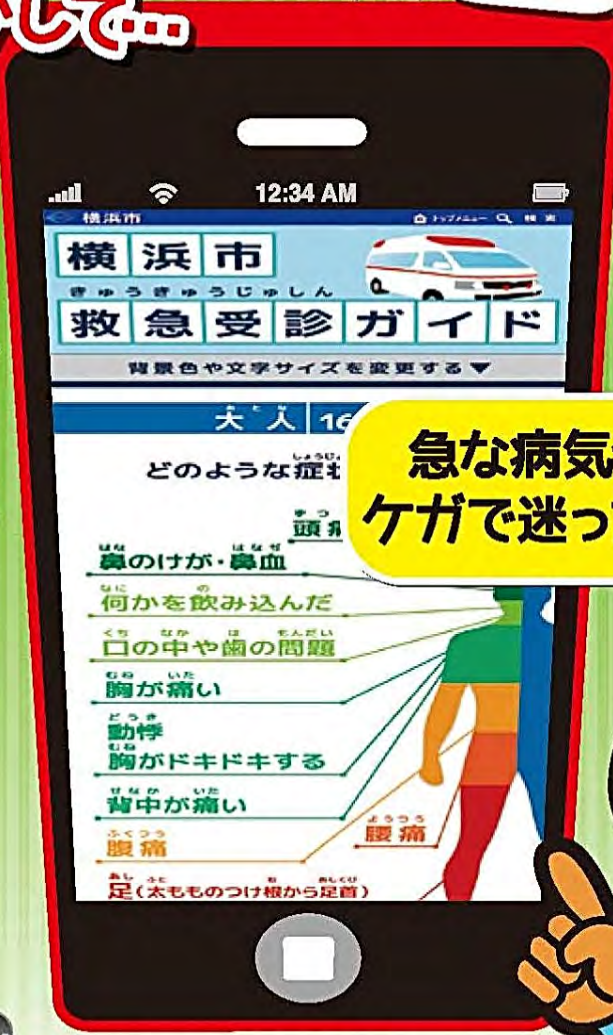
消防局救急課長 伊藤 賢司 Tel 045-334-6771

この症状...

このケガ...

もしかして...

救急車?



急な病気やケガで迷ったら



🔍 横浜市救急受診ガイド 検索

横浜消防マスコットキャラクター ハマくん



横浜市救急受診ガイド

横浜市救急受診ガイドとは

「横浜市救急受診ガイド」は急な病気やケガで病院に行くか、救急車を呼ぶか迷った際に、該当する病気やケガの症状を選択することで、緊急度や病院受診の必要性を判断できるサービスです。

横浜市救急受診ガイドによるアドバイス内容

- 救急車を要請する判断
- 病院で受診するべき時期
- 参考とする診療科目



※緊急性があると思われる場合は
ためらわず
救急車を要請してください。

緊急度の判定結果について

- 赤** **救急車を呼びましょう**
緊急度が高いと思われます。すぐに119番に電話して救急車を要請しましょう
- 黄** **今すぐに病院で受診しましょう**
2時間以内をめやすに病院で受診しましょう。
- 緑** **病院で受診しましょう**
病院で受診した方が良いでしょう。夜間でしたら翌日の診察でもかまいません。

横浜市救急受診ガイド

急な病気やケガで病院に行くか、救急車を呼ぶか迷ったときには、パソコンやスマートフォンで「横浜市救急受診ガイド」にアクセスし、該当する症状を選択すると、緊急性や病院受診の必要性についての判定結果を確認できます。

🔍 横浜市救急受診ガイド 検索



症状選択

呼吸が苦しい

主な症状
 「息が苦しい」「呼吸が苦しい」
 「息苦しい」「息が荒い」
 「肩で息をしている」
 「息ができない」など

- ☑️ 急に息苦しくなった。
- ☑️ 胸の痛みがある。
- ☑️ 泡のようなピンク色、または、白い痰がたくさん出る。
- ☑️ しばらく(数時間程度)今の状態が続いている。

該当あり

判定結果

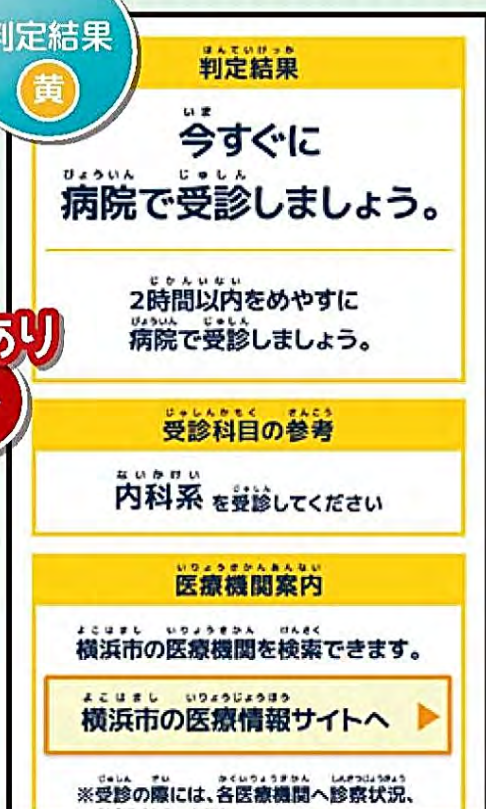
赤



該当なし

判定結果

黄



該当あり

呼吸が苦しい

主な症状
 「息が苦しい」「呼吸が苦しい」
 「息苦しい」「息が荒い」
 「肩で息をしている」
 「息ができない」など

- ☑️ 深呼吸することができない。
- ☑️ 最近けがをした。または、手術を受けたことがある。
- ☑️ (女性のみ) 最近、出産した。または、妊娠の可能性ある。または、妊娠している。

- 対象となる方の年代(大人又は子ども)を選択した後、該当する症状を選択していきます。
- 該当する症状がない場合は、「どれも当てはまらない。」を選択します。選択した症状により判定結果が表示されます。

アクセスはこちらから



<http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/qq/jushinguide/>

🔍 横浜市救急受診ガイド

※緊急性があると思われる場合は、ためらわず救急車を要請してください。



横浜消防
 マスコット
 キャラクター
 ハマくん

※画面はスマートフォン版・画面の一部を省略しています。

